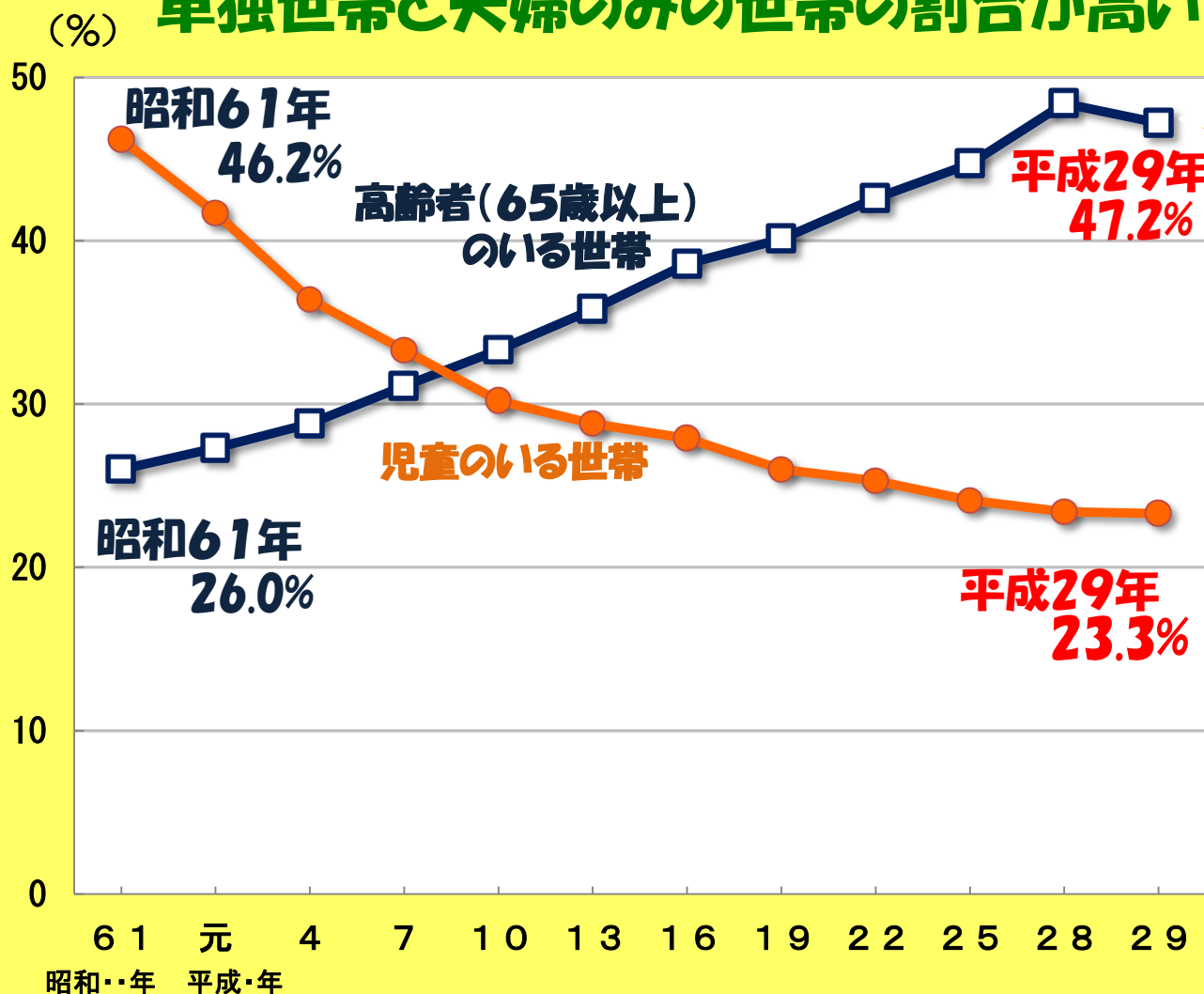
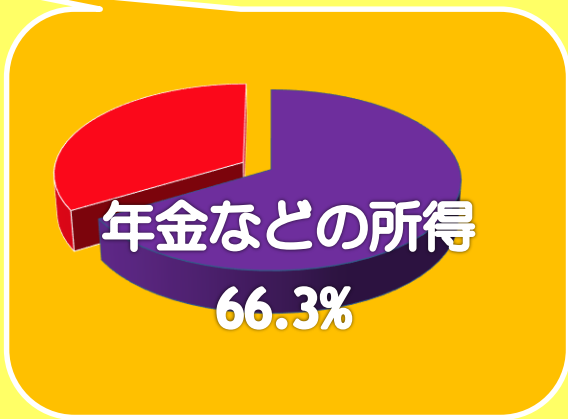
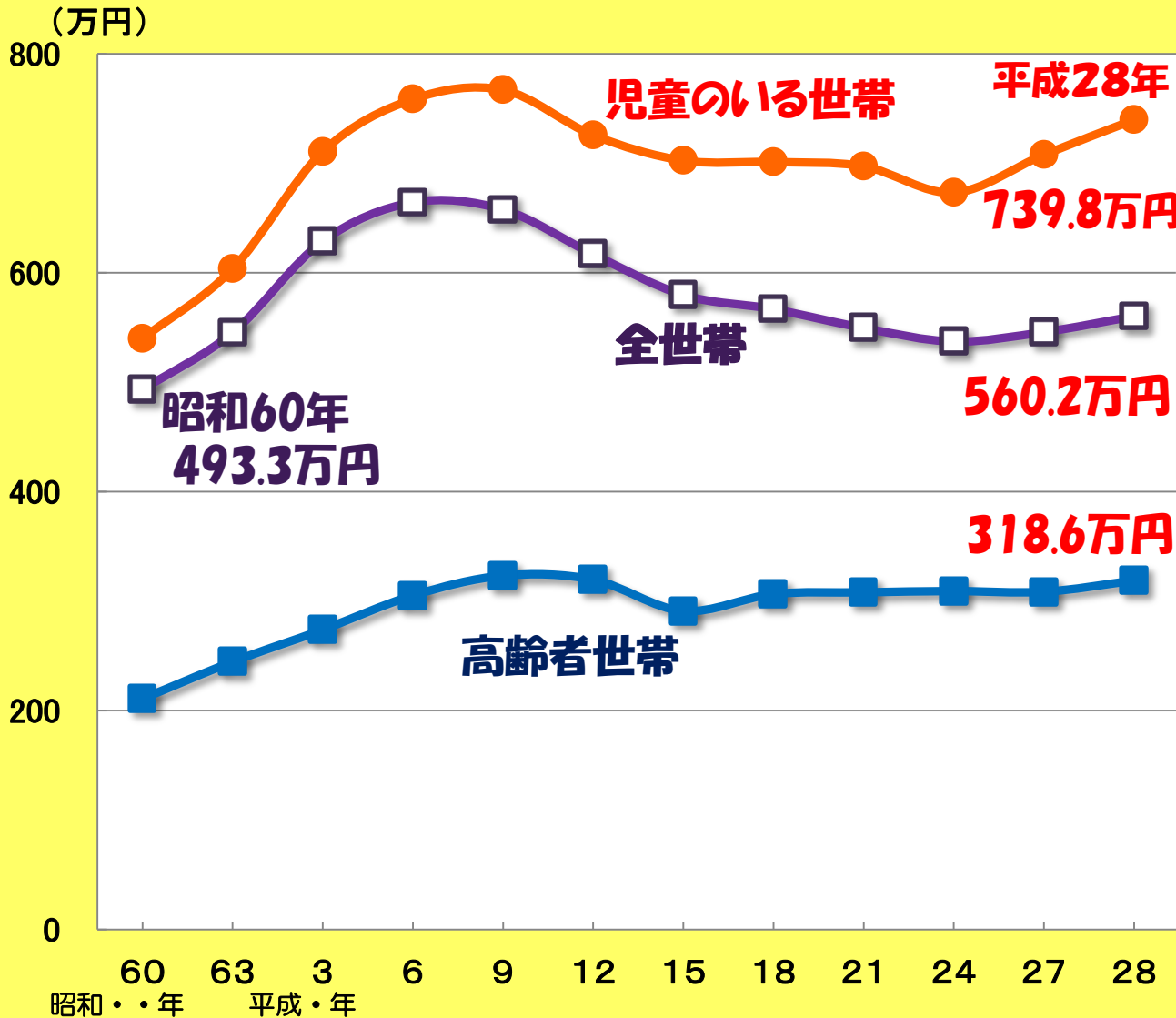


# 国民生活基礎調査 最近の結果から

- 児童のいる世帯の割合は低下傾向
- 65歳以上の者のいる世帯の割合は上昇傾向で  
単独世帯と夫婦のみの世帯の割合が高い



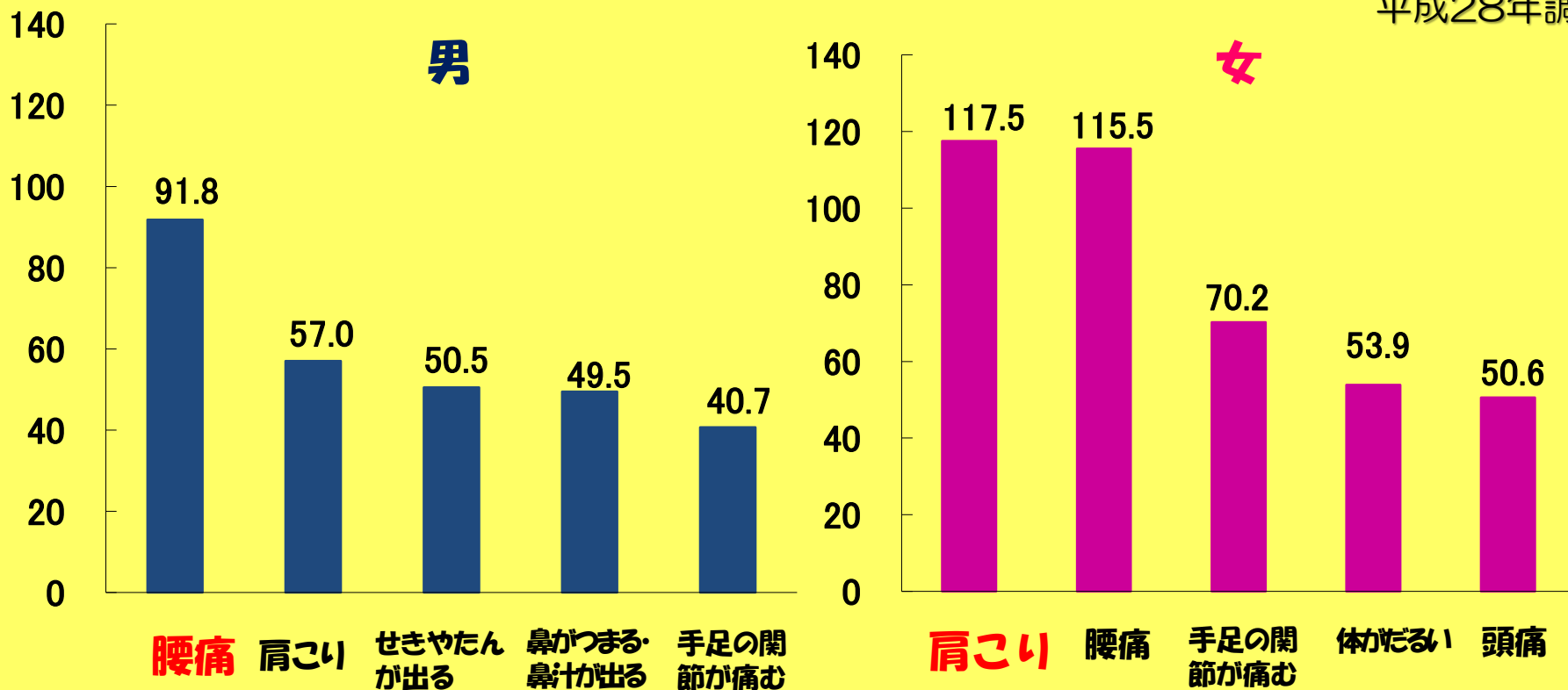
- 1世帯当たりの平均所得金額は560万2千円
- 児童のいる世帯では仕事による所得が約9割を占める
- 高齢者世帯では年金などの所得が約7割を占める



● 男性は「腰痛」、女性は「肩こり」を訴えている方の割合が最も高い

性別にみた有訴者率（人口千対）の上位5症状

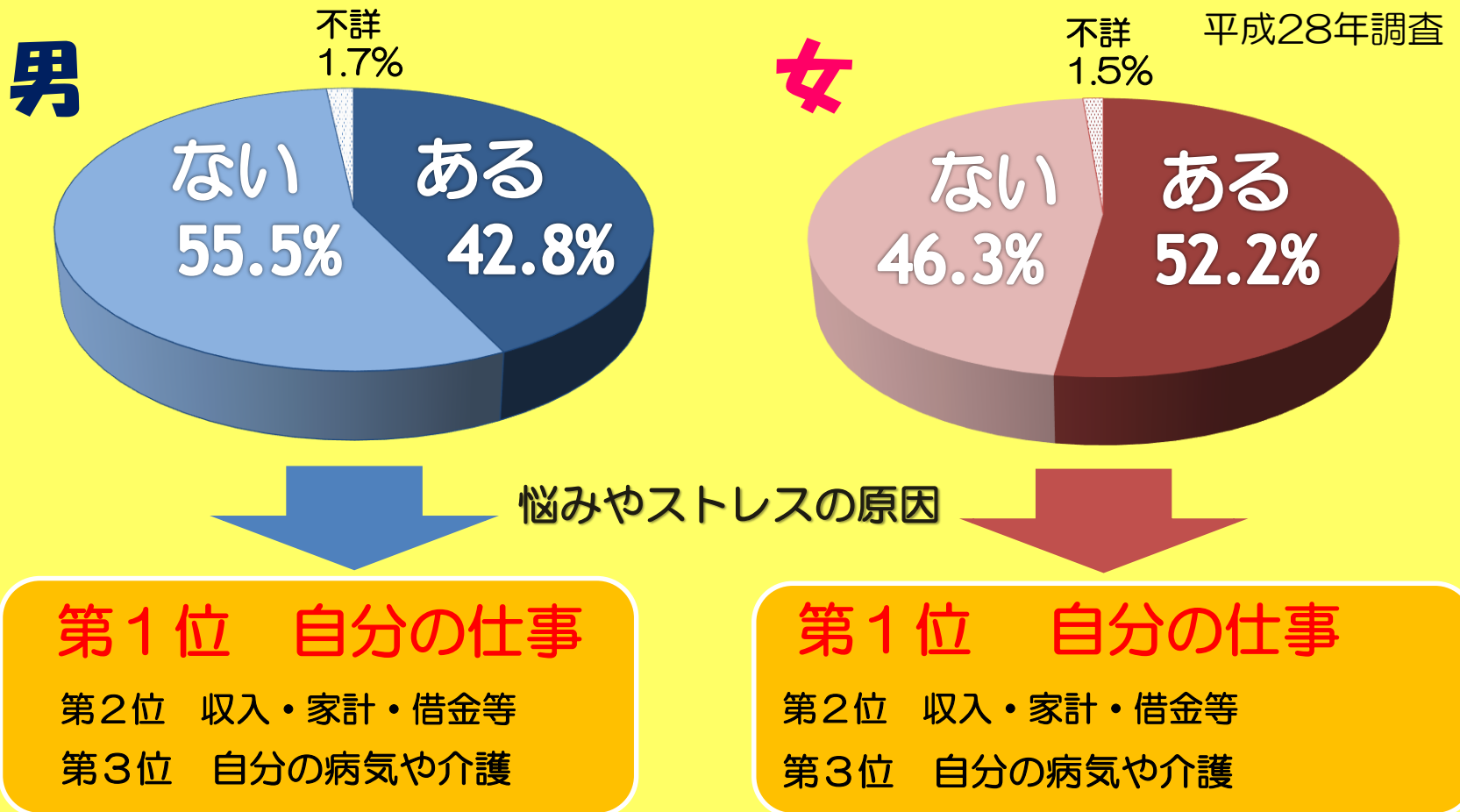
平成28年調査



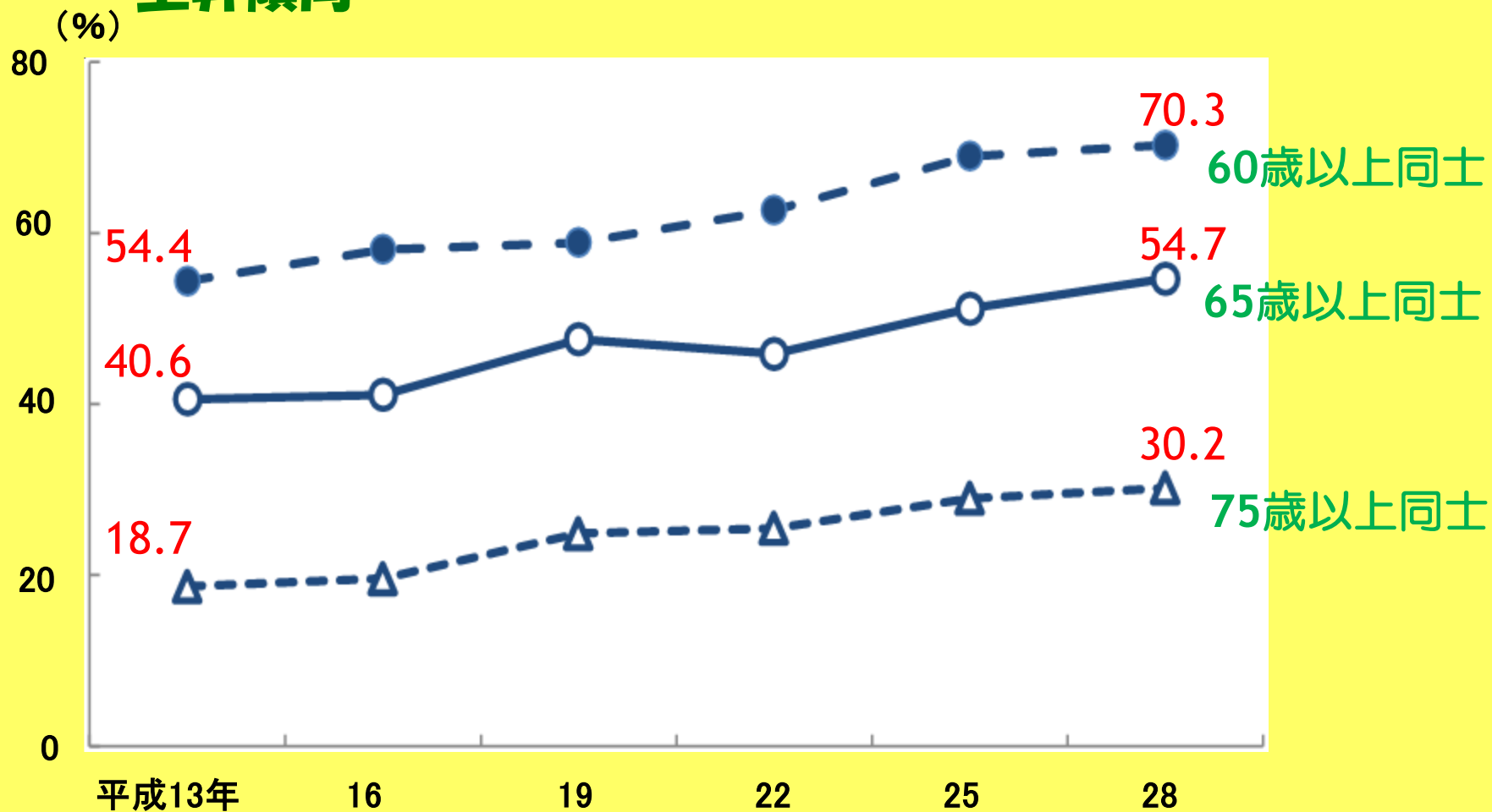
※ 有訴者とは、調査対象者（入院者を除く。）のうち、病気やけがなどで自覚症状のある者のことをいいます。

- 男性は約4割、女性は約5割が悩みやストレスがある
- 悩みやストレスの原因をみると、男女ともに「自分の仕事」が第1位

## 悩みやストレスの状況



- 要介護者等と同居の主な介護者の年齢組合せ別の割合の年次推移をみると、以下の組み合わせにおいて、いずれも上昇傾向



**詳しい調査結果は下記リンク先をご覧ください。**

- **国民生活基礎調査の概況**
- **政府統計の総合窓口(e-Stat)**

#### **利用上の注意**

- ・平成7年は、阪神・淡路大震災の影響により、兵庫県については調査を実施しておらず、数値は兵庫県分を除いたものとなっている。
- ・平成28年は、熊本地震の影響により、熊本県については調査を実施しておらず、数値は熊本県分を除いたものとなっている。